

# 平成27年度 淑徳大学心理臨床センター公開講座

## テーマ 「震災支援—卒業式を共にするという取り組み—」

淑徳大学大学院総合福祉研究科附属心理臨床センターでは、平成27年11月28日(土)に「淑徳大学心理臨床センター公開講座」を開催致します。今回は、東日本大震災4年を経て、学校が抱える現状を報告し、臨床心理学的な視点から支援を取り上げます。復興の中で家族は多様なストレスを抱えます。その影響を子どもたちは学校で様々な行動として表します。また、地域や家族が抱えきれなくなった結果、発達障碍の相談が増えています。どのように震災後の子どもの成長を支援していけばよいかは、大きな教育的課題です。同時に、臨床心理学における大切な課題の一つです。講演では、岩手県のある小学校が迎えた卒業式までの教育的取り組みに、初期から臨床心理士が関わり、教育に馴染んだ支援を行った過程を辿ります。教育あるいは心理臨床の専門職だけでなく、地域の社会資本に関心のあるさまざまな方の積極的な参加をお待ちしております。

日時 **平成27年11月28日(土)** 13時00分～17時10分

会場 淑徳大学 千葉キャンパス 15号館 201

内容 【講演1】「卒業式を共にするという取り組み」

永田伊津香(岩手県教育委員会事務局 宮古教育事務所 巡回型スクールカウンセラー  
臨床心理士)

小原和弘(岩手県宮古市 重茂小学校生徒指導主事 教育相談担当)

宮 伸幸(岩手県滝沢市 滝沢小学校 教諭)

【講演2】「聴くことと語りあうこと」

小川 恵(淑徳大学 総合福祉学部 教授、臨床心理士)

料金 一般 1,000円 学生 500円

対象 1. 専門職の方々(教育・心理・福祉・医療関係者)  
2. 大学院生  
3. その他、関心のある方

申し込み〆切 **平成27年11月9日(月)**

- ※ 講演会への参加が決まった方には、**振り込み先をご連絡致します**。事前に全参加費をお振り込みください。一度お支払い頂いた受講料は、天災などにより本研修が中止される場合を除いて、**いかなる理由においてもお返しできません**のでご了承下さい。
- ※ ご入金を確認されるまでに時間がかかりますので、大変恐れ入りますが、**受講当日、振り込み控えを受付にてご提示下さい**。
- ※ 11月12日(木)を過ぎてもお知らせがお手元に届かない場合は、お手数ですが心理臨床センター(Tel: 043-265-9927)までお問い合わせ下さい。

### 申し込み方法

- ◆別紙に必要事項をご記入の上、ファクシミリまたは郵送にてお申し込み下さい。
- ◆淑徳大学ウェブサイト内「センターの催し物」ページ内の「平成27年度 淑徳大学公開講座」から本研修の申し込み用紙がダウンロード出来ますので、申し込み用紙に必要事項をご記入の上、メールに添付なさるか、ファクシミリまたは郵送にてお申し込み下さい。
- ◆メールでお申し込みされる場合は、上記の方法で添付して送信するか、申し込み用紙の事項内容を全て記載の上、心理臨床センターまで送信して下さい。

◆お問い合わせ先 淑徳大学心理臨床センター 「淑徳大学公開講座」係  
〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町200 E-mail [acep@soc.shukutoku.ac.jp](mailto:acep@soc.shukutoku.ac.jp)  
Tel 043-265-9927 FAX 043-262-0146

地 図 お手数ですが、淑徳大学ウェブサイトにてご確認ください。<http://www.shukutoku.ac.jp>  
尚、当日は会場の都合により**お車でのご来場はできません**のでご了承下さい。  
JR蘇我駅東口・千葉銀行前よりスクールバス(無料:約10分)が運行しておりますので、どうぞご利用下さい。運行時刻は、上記ウェブサイト<交通アクセス><千葉キャンパスのスクール時刻表>にてご確認ください。心理臨床センターまでお問い合わせ下さい。

開催主体 主催 : 淑徳大学大学院総合福祉研究科附属心理臨床センター  
後援 : 千葉市教育委員会

# プログラム

【講演会】 淑徳大学 千葉キャンパス 15号館201教室  
受付 12時30分～ 15号館201教室前  
時間 13時00分開始 17時10分終了予定

【講演1】 13時10分～15時10分（講演後10分程度質疑）  
演題 1 「卒業式を共にするという取り組み」  
講師 永田伊津香（岩手県教育委員会事務局 宮古教育事務所 巡回型スクールカウンセラー  
臨床心理士）  
小原和弘（岩手県宮古市 重茂小学校生徒指導主事 教育相談担当）  
宮 伸幸（岩手県滝沢市 滝沢小学校 教諭）

## <講演の内容>

東日本大震災4年を経て、統廃合や新校舎への移動が進むが、学校が抱える現状の姿を報告する。復興の中で家族は多様なストレスを抱え、その影響を子どもたちは学校で様々な行動として表す。また、震災によって社会関係資本の弱体化が起こり、地域や家族が問題を抱えきれないことが増えている。スクールカウンセラーへの発達障碍の相談が増えていることもその一証左である。どのように震災後の子どもの成長を支援していけばよいかは、大きな教育的課題であると同時に、臨床心理学における大切な課題の一つである。講演では、岩手県の小学校における教育的取り組みの中に、授業も含め心理的な支援が組み込まれていることを報告する。更に、震災時、仲間を失った子どもたちの卒業という記念式典を、心理的回復と新しい人生への統合と位置づけられるように、臨床心理学的な視点から授業支援として行った試み取り上げ、スクールカウンセリングの未来を展望する。

【講演2】 15時30分～17時00分（講演後10分程度質疑）  
演題 2 「聴くことと語りあうこと」  
講師 小川 恵（淑徳大学 総合福祉学部 教授 臨床心理士）

## <講演の内容>

東日本大震災4年を経て、復興は進んでいるが、片側では問題の深刻さを増している。現在の回復の傍らで、継続する生活ストレスが、子どもや家族、地域のこころの負担を生じている構造を展望する。社会構造の変化が大きいからこそ、家庭での語らいが復興期のケアの基本になる。しかし、実際は、震災によって地域の絆である社会関係資本の弱体化が起こり、地域や家族で問題を抱えきれない現象が増えている。講演1を踏まえ、家庭や地域の支えあう力が不足する状況において、子どもたちの被災後の心を埋めて行く役目を担っている家庭と学校の状況をみる。また、生徒を通じての学校から家庭への支援が可能になるあり方を臨床心理学的な支援として考える。